

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

特 259 37
161 66

茶道經國講演錄

始



特259
161

目次

緒言

茶道の解

國民道德の向上及茶道と儒佛の關係

茶道と實生活及茶會と禮儀演習

茶道は分限を本位とす

茶道の趣味と美術思想

茶道の流儀と茶道の定義

目下流行の生花は實用を爲さず

茶道革新改善の急務

道德禮義の衰頹

東遊雜詩

一五九 一六三 一六六 二二一 二二五 二二七 三三五 四〇



茶道經國講演錄

昭和五年
六月四日

東京司法大臣官舎ニ於テ

財團
法人

松殿山莊茶道會々長

高 谷 宗 範 述

緒 言

閣下諸君、今日ハ、司法大臣子爵渡邊千冬閣下、子爵青木信光閣下
子爵牧野忠篤閣下、ノ御世話ニテ、此ノ司法大臣官舎ニ於テ、茶道
ノ講演ヲ致シマス、思フニ昨年六月、右三子爵閣下ノ御世話ニテ、
東京華族會館ニ於テ、茶道ノ講演ヲ致シマシタ、斯ル貴顯紳士ノ
前ニ於テ、茶道ノ講演ヲ爲スコト、已ニ一回ニ及フ、蓋茶道創始以
來絶無ノ事ニシテ、獨リ宗範一身ノ光榮ニ止マラス、實ニ我日本
茶道界ノ面目ナリトス、厚ク感謝致シマス。

二
扱今日ハ、茶道經國ノ題下ニ於テ、聊カ愚説ヲ講述致シマス、抑モ
茶道經國トハ、茶道ヲ以テ、國家經綸ノ機關ト爲ス者ナリ、夫レ國
家ヲ經綸スルニハ、種々ノ機關ナカルヘカラス、政治、法律ハ、勿論
其他經濟、美術、工藝、文學、教育、宗教、音樂、等皆其機關ナリ、殊ニ道
徳ニ基キ、禮義ヲ實行スル所ノ我茶道ハ、國民道徳ノ主位ヲ占ムル
者ナレハ、國家經綸ノ必要機關タルハ、論ヲ待タサルナリ。

現今世間ニ流行スル所ノ茶道ハ、或ハ手前法式ニ囚ハレテ、茶道
ノ本旨ヲ沒却スル者アリ、或ハ名物珍器ヲ玩弄シテ、驕奢相誇ル
者アリ、皆是レ茶道ヲ以テ娛樂遊戲ト爲ス者ノミニシテ、未タ以
テ茶道ノ禮義ヲ實行シテ、國民道徳ヲ擁護スル者ヲ見ス、故ニ世
人カ、今日流行ノ茶道ヲ以テ、禮義ヲ實行スル者タルコトヲ認め
ス寧口、茶道ヲ以テ無用ノ長物ト爲シテ、之ヲ排斥スルニ到ラシ

メタル者ハ、全ク茶人自ラ招ク所ノ禍ナリト謂フベシ

余カ新ニ設立シタル所ノ、財團法人松殿山莊茶道會ニ於テハ、我
歴代列聖ノ詔訓ヲ遵奉シ、現在茶道ノ弊風ヲ革新シ、教授法ヲ改
善シ、純正ナル茶道ニ基キ、思想ヲ善導シ、風俗ヲ醇化シ、以テ
皇室ヲ翊戴シ奉ラント欲ス、是レ我茶道會ノ精神ナリトス。

余ハ本年已ニ八十ノ頽齡ニシテ、斯ノ大事業ニ當ル、縱令其全部
ノ目的ヲ完成スルコトヲ得サルモ、我國ノ貴顯紳士カ、茶道ニ依
リテ、國民道徳ヲ擁護シ、我國ノ禮義ヲ實行スヘキ道ヲ知了シ、又
天下ノ茶人カ、純正茶道ノ精神ニ基キ、自ラ其革新改善ノ必要ヲ
感覺スルニ至ラハ、余カ國家ニ貢獻スル所ノ目的ノ一班ヲ達成ス
ル者ナリ、是ヲ以テ余自ラ其謏劣ヲ揣ラス、此ノ演壇ニ登リテ、茶
道經國ヲ高唱スル所以ナリ、是レヨリ本題ニ入り、聊カ愚説ヲ述

ヘントス、暫ク御清聴ヲ乞フ。

四

高谷宗範誌

茶道の解

茶道は神の道たる聖訓に恪遵し至誠を以て天下の大經を經綸する道を守り之を奉行して我が精神を振作し人心を醇化し以て 皇室を翊戴す

茶道とは即ち人道なり抑も道とは人倫の常に基き事物の理を明かにするを謂ふ中庸に曰天の命之を性と謂ふ性に從ふ之を道と謂ふ道を脩むる之を教と謂ふ道は須臾も離るべからず離るべきは道に非ずと水戸の弘道館記に曰道とは何ぞ天地の大經にして生民の須臾も離るべからざる者なりと此の弘道館記と其館記に付藤田東湖が著したる述義とが日本の士氣を奮ひ起し大義名分を明らかにし遂に明治維新の一原素と爲りたる者なり

教育勅語に曰斯の道は實に我が皇祖皇宗の遺訓にして子孫臣民の俱に遵守すべき所之を古今に通じて謬らず之を中外に施して悖らず 朕爾臣民と俱に拳拳服膺して咸其徳を一にせんことを庶幾ふとある斯の道が即ち我茶道の遵奉する所

五

の道なり

六

謹んで惟るに日本は神の國なり我等臣民は神の子孫なり故に神の道を行ふことは我等國民の義務なり神とは即ち 天皇陛下なり神道は即ち皇道なり然れば歴代列聖の詔勅は即ち惟神の道なり殊に教育勅語を以て國民の遵守すべき道を明示せられたり之を遵守し之を奉行して先づ我精神を振作し我思想を涵養し進んで人情を善導し風俗を醇化し以て皇室を翊戴し奉る是れ我茶道の精神なり

余が茶道の精神を前述の如く解釋を下したる原因は明治元年三月に發布せられたる五條の御誓文第四に「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」とある聖旨を遵奉し茶道舊來の陋習を破り天地の公道たる神の道に基き之を我茶道の精神と爲したる所以なり

國民道德の向上及茶道と儒佛の關係

我國體は萬世一系天壤と無窮なり其固有の美德に據りて儒學佛教を包容同化

せり是を以て儒學は日本儒學と爲り佛教も亦日本佛教と爲り之を調和洗鍊して以て國民道德の基礎を確定し長く我國の心靈界を支配し國民性をして崇高醇正の域に躋らしむるを得たり

儒學は應神天皇十六年に初めて我國に渡來してより既に千六百有餘年を経過す其初め我國に入りたる後我固有の美德に同化して倫理の原則を定め道德の標準を立て早く教化を盡したるより漸く人心に入り國民道德の主位を占め風俗を改善し人文の進化を致せり

佛教は儒學に後るゝこと二百五十年欽明天皇十三年に初めて支那を経て我國に渡來せしより既に千三百七十九年を経過す而して佛教は已に支那に一變し後又日本に再變す其初め我國に入りたる後我固有の美德と國民の思想とに同化して遂に治國濟民の宗教として専ら力を衆生濟度に盡したり

熟ら我國民道德の向上發達せし所以を考ふるに抑も我國は神ながら固有の美

七

徳あり而して儒學佛教に因り之を洗鍊し之を研磨したる結果日本魂と曰ひ武士道と曰ひ茶道と曰ふ者を陶鑄し來れり譬ば固有の美德は玉の如く儒佛は砥礪の如く刀鏢の如し皆是れ玉を切磋琢磨する所の機械なり夫れ玉は固有の光あり機械の力に頼りて益其光輝を發揮したる者なり

茶道は我國體に據り國民道德に基き禮義を實行する者なり故に一面儒學に因て倫理道德禮義を審明し一面佛教殊に禪に因て點茶の儀式飲食の規律を參酌す是を以て茶道は儒佛と同化して益其眞理を探究し其心法を鍛鍊し其趣味を向上せり

光格天皇御製に曰

敷島の大和錦に織りてこそ唐紅の色もはゑあれ

右御歌は實に能く儒學佛教が我固有の美德及國民の思想に同化せしことを言明せられたり抑も儒學は支那に起りて其道大に我國に傳はり支那に於ては益衰微

す又佛教は印度に起り大に我國に流行し印度に於ては早く己に衰滅す蓋儒佛が我國に於て一時大に隆盛を極め今日迄其命脈を保持せし所以の者は全く我固有の美德と國民の思想とに包容同化せられたる效果なりと謂ふべし

茶道と實生活及茶會と禮儀演習

茶道は人倫日用の常道にして實に人生處世の要道なり故に茶道は常識を涵養し禮義を實行し人格を向上し吾人の生活交際をして圓滑靈活ならしむる所の必要機關なり然れば則ち茶道は吾人の實生活を離れて獨り存在する者に非ず

儒學に説く所の禮義と茶道に行ふ所の禮義と敢て異なる所なし彼は慎重に其理を説き我は簡易に其實を行ふ抑も灑掃應對進退の禮は皆茶道に於て之を實地に行ふ所の者なり然れば茶道を平易に解説すれば人々其住居の家屋庭園の灑掃より床に書畫を掛け花を挿み香を炷き賓客に對し茶菓酒飯を饗應する所の法式な

り又客と爲りて庭砌の歩き方座敷の坐り方茶菓酒飯を飲食する所の法式なり是れ皆秩序を定め儀禮を守り賓主互に相交る所の儀則にして即ち修身、齊家、往來、交際、の常道なり是を以て茶人は常に其品格を守り其言語舉動を慎み温良恭謙讓の徳を脩め共存共榮の誼に基き醇風美俗を保持し以て世道人心に貢献す是れ茶道の要旨なり

茶人朋友を招き茶筵を開く之を茶會と謂ふ茶會に二種あり草庵式茶會と書院式茶會と是れなり書院式は廣間に於て名物珍器等を用ひ莊嚴の茶會を爲すを謂ふ草庵式は小坐敷に於て安價清楚の器物を用ひ簡畧の茶會を爲すを謂ふ

抑も茶會は文雅風流の趣味を以て賓主の交情を温むるに在り或は庭園林泉を觀賞し或は書畫器物を愛玩し香を炷き花を挿み美酒佳肴を饗し芳茗を啜りて胸塵を洗ひ賓主互に胸襟を披き肝膽を照らし正心誠意を以て其交情を繋ぎ高尚優美にして且禮樂を兼備へたる文雅風流の交會なり

今日の茶人は一般に草庵茶會を以て茶道唯一の目的と爲し茶會の外に茶道の目的なしと解釋する者比々皆然り然れ共余は此説を取らざるなり夫れ茶會は禮義の交會なりと雖茶道唯一の目的に非らず蓋茶道の目的は吾人の實生活に對し禮義を履踐する所の者にして茶會は即ち其禮義實行の演習訓練なりと解釋す故に茶會に於て研究鍛練したる所の者は皆人事の儀則なり之を以て人間行事の上に施す者なり此故に茶道は吾人の實生活を離るべき者に非ずと謂ふ所以なり

今の茶人は皆草庵式を知て書院式を知らず茶會は常に草庵のみに於て執行する者と誤解せり且又草庵は人間界を超越して別世界を成す出世間的の者と爲し吾人の生活の本據たる人間社會を世間的と爲し世俗卑陋の者と爲して之を輕蔑し遂に茶道をして益實生活と隔離せしむるに到れり故に世人が茶人を觀て常識を缺乏する世外の風來人と冷評せらるゝは亦止むを得ざるなり

昔或る茶會の席に於て正客が名物たる交趾の香盒を拜見の時誤つて之を取り

落し破損せり大に心配して其謝罪に付連客と相談中主人出て來り問ふて曰如何
 なされました正客曰私誤て御香盒を破損致し面目次第なし何卒御免し下されま
 しょ主人曰否々決して御心配に及びません又破れましたか誠に申譯ない失禮を
 致しましたと云ふて其香盒を持ちて退かれたり正客初め一同烟に卷かれ茫然た
 りし頓て茶事も相終り來客皆退出す正客は歸宅後心安んずる能わず是に於て末
 客たりし人を頼みて主人方に往き其事實を問わしむ主人曰彼の香盒は其初め出
 したる時は決して破損物に非ず然し彼の時正客の過失とすれば正客は忽ち面目
 を失ふべし余と正客とは無二の親友なり其友情は香盒一個に代へ難たし故に初
 めより破損せし香盒を使用したる如く装ひ自己に其責任を引受け正客を助け其
 苦境より免がれしめたる者なり是れ茶道の禮義を實行したる者なりと末客之を
 聞き主人の友情に厚きと茶道禮義の尊きとに感服し去りて之を正客に告ぐ正客
 大に敬服し直ちに交趾香盒に劣らざる名香盒を贈りて厚く謝意を表したり是よ

り兩人の交情は一層親密を加ふ是れ即ち禮義實行の真相にして茶道哲學の眞髓
 なり今日の茶人は往々道具に囚れ道具の爲めに或は友情を破ることあり大に戒
 むべき事なり

茶道は分限を本位とす

茶道は其人の分限に安んじ足るを知るを以て處世の標準と爲す故に驕奢は固
 より之を禁じ吝嗇も亦之を戒しむ貴賤貧富各其身分に應じ生活交際の中正を守
 らしむ是れ茶道の主眼なり司馬溫公曰禮は分より大なるは莫しと蓋茶道が分限
 を以て處世の標準と爲せしは禮義實行の最も大切なる者なればなり

茶道は其人の身分を本位とす故に富貴の人は其身分相應の器物を以て書院莊
 嚴の茶會を爲し貧賤の人は亦其身分相應の道具を以て草庵簡畧の茶會を爲すを
 正則と爲す然るに今の茶人は貴賤貧富を問はず茶會は總て草庵に於てのみ之を

開き名物亂用の弊名狀すべからず殊に茶道に於て最も大切に守るべき所の分限本位の原則を破りて之を顧みざる者多し蓋此等茶人は或は分限本位の原則を知らず又書院式あることを知らず故に茶會は必ず草庵に於て之を開くべき者と誤解せし者ならん今日立派なる茶家宗匠にして尙且書院式と草庵式の區別及分限本位の原則を知らざる者あり然れば普通茶人の之を知らざるは深く之を責むるに足らず今後茶家宗匠に於ては此等の區別原則は自ら能く之を守り一般茶人をして之を守らしむべき者なり

今夫れ宗匠が教授する所の手前中に貴人扱と稱する者あり是れ貴人に對し尊敬を表し接待する所の法式にして即ち貴顯の身分を本位として優待する所の扱なり譬は貴人に對し獻茶する時は臺子、天目、長盆、等鄭重なる法式を用ひ書院に於て之を開くべき者にて草庵に於ては之を開くことを得ざる者あり故に其人の身分に依りては或は書院式と爲し或は草庵式と爲し茶道の本旨に従ひ能く

之を區別して行はざるべからず

富貴の人にして草庵侘茶會を爲し失敗したる實例あり昔淀の城主永井信齋は宗且門下の茶人なり曾つて宗且の茶會に招かれ其侘茶の趣向に感服せり其後信齋自ら主人と爲り一汁三菜の獻立にて大侘の茶會を開き宗且を招請して之を接待し定めし宗且喜ぶべしと思ひきや宗且甚だ不興の體にて歸りたり信齋不快に堪へず翌朝家來を京都に遣し宗且に問ふて曰昨日は何にか御氣に觸れた事ありしやと宗且曰永井信齋氏は御大名の事なれば定めて淀川の鯉や御鷹の鶉位は頂戴出來る事と存じ態々京都より参りたる處御大名の御茶會に似合ひ申さず意外にも御前平素の御膳部にも有るまじき粗末なる事なりし是れは全く侘の眞似マキそこないと申す者なり大名は大名らしき御茶をなさるが茶道の本旨なり此意宜しく御傳へあれと家來復命す信齋大に驚き曰吾誤てりと早速更に茶會を開き宗且を招請して二汁七菜なる鄭重の料理を以て之を優待せられたり

右の如く茶道は古來分限を本位としたる者なれば茶人は我身分と客の身分に應じて書院式と草庵式とを區別して茶會を開くべき者なり今日の茶人が此原則を守らずして猥りに草庵のみに於て茶會を開く者は前述の宗且が信齋を訓戒せし事を見て大に服膺すべき者なり

近來我國民の風俗を観るに農工商皆其身分を忘れて虚榮に傾くの折柄偶ま世界大戰以後大陸驕奢の風潮に襲れ我國民舉つて華靡に流れ虚榮に溺るの弊を生じたり遂に山間僻地の貧農の小女等皆自家に在て農事を爲すを好まず都會に出で美服を纏ひ美装を飾るの勢を醸成す實に憂慮すべき現状なり縱令今日階級制度としては現存せざるも四民皆其貧富に應じ各其分限を守りて生活交際を爲さざるべからず今や當局に於て國産品奨勵と同じく此等分限を超越し驕奢華靡に陥り風俗を破壊する者は之を矯正し之を善導する道を考究せられたき者なり

茶道の趣味と美術思想

凡そ人飢へて食ひ渴して飲み日々營々として僅に飢渴を免れ日月を送る者は原始的の生活にして穴居時代の状態なり茶道は其原始状態より文明に進み更に生活上の趣味と爲り藝術と爲り天然と同化して生活交際を爲す所の大なる趣味を有する道なりとす

趣味とは其人の嗜好に應じ感興を起す所の趣を謂ふ即ち或興味が五官に感觸する所の者なり譬ば食の口に於ける色の目に於ける聲の耳に於ける香の鼻に於ける喜樂の心に於ける即ち是れなり然れ共人各其嗜好を異にす随つて其趣味も亦異なれり酒を嗜む人は飲酒に趣味あり演劇を好む人は觀劇に趣味あり或は獵獸或は釣魚或は音樂或は讀書或は揮毫等皆是れ其人の嗜好に因て趣味を異にする者なり

人として苟も趣味を有せざる者なし而して其趣味に高尚なる者あり卑俗なる者あり蓋人格の優なる者は高尚の趣味を愛し其劣なる者は卑俗の趣味を好む是

れ自然の數なり抑も茶道は文雅風流を趣味とし人々相交り相樂む所の道なり是を以て茶道は博愛共存の誼に適し仁義忠孝の道に合す人間無上の趣味なりと謂ふべし

儒學に於ては大に禮樂を尊重し而して樂は専ら音樂に限れり佛敎に於ても耶蘇敎に於ても亦皆音樂を主とす然るに我茶道に於ても亦禮樂を尊重し而して樂は獨り音樂のみに限らず樂の範圍甚だ廣し第一書畫器物瓶花等を以て目の樂と爲し第二名香を炷きて鼻の樂と爲し第三喫茶料理菓子等を以て口の樂と爲し第四釜の煮へ音即ち松風の聲及庭の笈水の音又は銅鉦の幽聲等を以て耳の樂と爲し第五談話交歡を以て心の樂と爲す是を以て茶道の趣味は五官の樂を爲す者に於て其範圍甚だ廣汎なりとす

夫れ我國は四方海を環らし山高く水深く風光明媚にして天地秀靈なり故に此地に生息する所の者は皆淳朴にして文雅の趣味を有し美術の思想に富む是を以て我國の工藝美術は皆高雅優秀にして世界に超越せり蓋我國人は世界に卓越する天然の美中に在て其美術を製作する者なれば其美術の世界に卓越するは亦當然なり

殊に又我國は氣候温和なるを以て草木の美花四時山野に滿つ故に車夫馬丁と雖花を折りて竹筒に挿み之を樂む者多し故に其上流の生活を爲す者は必ず庭園林泉を作り茶室を築き書畫香花喫茶を樂むは蓋天性に出る者にして茶道の我國に勃興したるは亦偶然に非らざるなり然れば一方に此美術あり一方に其美術を活用して高尚の趣味を樂ましむる所の茶道あり兩者相待つて我國粹の精華を發揮したる者なり

近來は世界一般に美術愛玩の風潮を來たし英國の如きは紳士にして美術の思想なき者は蔑視せらるゝ傾向となれりと夫れ我日本國は世界に卓越したる美術國なり又我茶道は萬國に比類なき所の者にして文雅の趣味を有し禮義を實行し

風俗を醇化する所の我精神文化の眞髓なり然るに今や我國民は或は政治功名に熱中し其思想大に墮落し美術を愛玩する趣味なく又我茶道に依りて禮義を尊重する事を知る者なし然れば則ち世界の流行に後れ我日本國民たる品位を失ふに至らん我國の紳士たる者は宜しく猛省すべき時なり

或は又家に巨萬の資産を有する富豪にして其主人は何等の趣味もなく娛樂もなく人に施さず自ら費さず禮義なく人格なき者あり此等の人は實に金錢の奴隷となり只金を積んで空しく死するのみ人の人たる幸福なく殆ど禽獸と擇つ所なし而して其子孫二代又は三代に至り忽ち倒産して一家滅亡し遂に其祭祀を絶つ者あり實に寒心に堪へざるなり司馬溫公家訓に曰「金を積んで子孫に遺す子孫未だ必ず守る能わず書を積んで子孫に遺す子孫未だ必ず讀む能わず陰徳を冥々の中に積み以て子孫長久の計を爲すに如かず此れ先賢の格言乃ち後人の龜鑑なり」と實に至言と謂ふべし然れ共若し司馬溫公をして我茶道ある事を知らしめ

ば陰徳を積むの外必ず茶道に入りて禮義を行ひ文雅高尚の趣味を樂しむべしと訓示せしならんか

茶道の流儀と茶道の定義

今日現存する所の茶道各流儀の中其最も世間に流行する所の者は千家表流。千家裏流。千家官休庵流。藪内流。志野流。庸軒流。久田流。松尾流。宗偏流。等なり世人之を平民流と謂ふ其外に又三齋流。遠州流。石州流。不味流。あり世人之を大名流と謂ふ蓋大名流は帛紗を右帶に挟み平民流は帛紗を左帶に挟むを以て區別せり思ふに昔帶刀の有無に因て此區別を生じたる者なり

古來茶人は専ら手前法式を尊重し利休時代より秘傳口傳を嚴守す且其手前法式に對する教授科目は年々之を増加せり其繁雜なる科目は悉皆實生活に必要缺くべからざる者なるか否然らず之を省略するも實際に差支なき者尠なからざる

なり

余夙に茶書を涉獵し各流の定義を研究せんと欲せしも文献の徴すべき者更に之れなし其汗牛充棟の茶書は皆手前法式及茶會道具附に關する記事のみにして一も茶道の精神定義を闡明したる者なし利休の歌に曰「茶の湯とはたゞ湯を沸かし茶を立て、飲むばかりなる本を知るべし」と今の茶人は此歌を以て利休の茶道の秘訣として大に賞讃すれども甚だ淡泊無味にして茶道の定義と認むることを得ず

宗且の歌に曰「茶の湯とは耳に傳へ目に傳へ心に傳へて一筆もなし」と是の歌は禪の不立文字より來りたる者なり然るに禪には其外に「直視人心見性成佛」があれ共宗且の歌には其見性成佛の如き者あることなし然れば其心に傳ふる所の者は果して何物なるか之を知るを得ざるなり是れ亦以て茶道の定義と看做すことを得ず

茶書中に在て南坊本録は南坊宗啓か利休の眞説を筆記したる者にして利休の蘊蓄は皆此書中に包含する所の者にして茶道の金科玉條と稱す之を他の茶書に比する時は茶會の法則器物の配合等大に見るべき者ありと雖悉く皆之を利休の眞説なりと斷定することを得ず何となれば該書は利休死後に於て禪僧たる宗啓か其編纂を終りたる者にて其後九十三年を経て筑前の立花實山が追補完成したる者なり實山も亦禪に入りたる者なり故に兩人共禪に立脚して茶を説きたる者なれば禪に偏倚する所多く純正なる茶道獨立の精神定義を解釋闡明したる者に非ず且夫れ南坊本録は今を距る三百有餘年前の編纂なれば其説甚だ陳套に屬し今日の眼を以て之を觀る時は時勢に矛盾する所多し縱令利休の眞説とするも今日以後其儘之を實行することを得ざる者尠なからざるなり

余は常に利休を尊敬し己に茶道の賢人として我松殿山莊聖賢堂中に利休の畫像を祀りたり且南坊本録中に在る茶道の法則にして今日の時勢に適する者は皆之

を取つて實行せり然れ共利休の茶道の精神及定義に關する解釋は一も之を知ることを得ざるは遺憾なり今日の茶人或は曰はん君が茶道の定義解釋は利休居士が未だ言はざる所なれば甚だ僭越なりと余以爲く縱令利休が言はざる所の茶道の定義解釋を主張するも又利休の説に異なる所を主張するも決して僭越にあらず何となれば茶人が獨立して我が茶道の精神定義の解釋を定め之を闡明實行するは其人の自由にして決して他人の拘束を受くべき者に非らざればなり

試に宗教を觀よ傳教は天台宗を開き弘法は眞言宗を開き法然は淨土宗を開き親鸞は一向宗を開き日蓮は法華宗を開く均しく皆佛教にして各其宗派を分ち互に獨立して其宗旨安心を定めて之を闡明實行せり茶道も亦然り均しく茶道中に在つて利休は千家流を開き劍仲は藪内流を開き宗甫は遠州流を開き宗關は石州流を開き各獨立して其專屬の手前法式を定め之を實行する何等差支なし然れば其流儀を創立せし時に於て其茶道の精神及定義を定め之を闡明して我流儀の茶道の本旨を表示すべき者なり是れ即ち宗教の宗旨安心と同一の者なればなり然るに今日の茶人は我が流儀に屬する茶道の精神定義を闡明表示せずして僭に手前法式のみを教授し殊に秘傳口傳の陋習を株守して只營利是れ計り遂に茶道をして俗調に陥らしめたるは實に千歳の遺憾なり是に於て余は山莊流を開くや直ちに其定義目的等を闡明して之を表示せり今日以後一流の茶家宗匠たる者は我流儀に屬する所の茶道の本旨たる定義目的を闡明表示して而して後之を教授せざるべからず

道の本旨を表示すべき者なり是れ即ち宗教の宗旨安心と同一の者なればなり然るに今日の茶人は我が流儀に屬する茶道の精神定義を闡明表示せずして僭に手前法式のみを教授し殊に秘傳口傳の陋習を株守して只營利是れ計り遂に茶道をして俗調に陥らしめたるは實に千歳の遺憾なり是に於て余は山莊流を開くや直ちに其定義目的等を闡明して之を表示せり今日以後一流の茶家宗匠たる者は我流儀に屬する所の茶道の本旨たる定義目的を闡明表示して而して後之を教授せざるべからず

目下流行の生花は實用を爲さず

目下一般に流行する所の生花即ち流儀花は實用を爲さず總て娛樂遊戲に陥るは遺憾なり速に其教授法を革新改良して日本美術の眞價を發揮せざるべからず左に之を詳論せん但茶會に用ふる所の花は之を茶花と稱し茶道の中に包含し生

花の中より除外す

二六

第一花道とは生花の事にて一名流儀花とも謂ふ今日世間に流行する所の生花の流儀數派に分立す池の坊流遠州流石州流未生流青山流遠山流等是れなり元來生花の挿法は幹を矯め枝を曲げ或は天地人と稱し或は眞行草と稱し一種の姿を作る者にして或は技巧に勝ちて花の出生を害することあり殊に又生花は其花瓶は薄端カスミバと水盤スミバシの二種に限り其他銅器陶器籠等の花瓶を用ふることを得ざるは生花の缺點なり但生花の外に投入と稱する花ありて生花の挿法とは其趣を異にする者ありと雖此投入花は又茶花とは全く其撰を異にする者なり

生花を稽古する者は初傳、中傳、奥傳、と唱へ三階級に分ちて免許狀を交付す而して生花の目的とする所は春秋二季に生花の陳列會を開き稽古人の作品たる生花を陳列して其作人の名札を出して一般の人に縦覽せしむるに在り此花は皆自ら挿む規則なるも間には先生が代作して生徒の名札のみを出す者もありと聞

く此花を出す者は大抵青年の娘及妻君多く皆美裝して會場に集り辨當を食する一種の娛樂遊戲の會なりとす

生花を學びたる人は生花陳列會に自己の作品を出すの外に何等の目的を有せず故に我住宅の床の間に日々用ふる所の花は勿論佛事、婚禮、宴會、等の花は皆花屋の老翁が花を持ち來りて投入を爲すなり其生花を學びたる主人妻君娘等皆此等自家用の花を挿すことを得ず然れば生花は只一年二回位の陳列會に出品するのみにして實生活に向て何等實用を爲す者に非ず元來花道は茶道と唇齒輔車の關係を有し共に東洋の美術なり時勢に順應して大に改良進歩を計らざるべからず

茶道革新改善の急務

茶道は明治維新の時に於て他の文化と共に革新改善すべき者なり明治維新は

二七

我國中興の鴻業にして政治、法律、文學、美術、工藝、其他百般の事物制度悉皆改良進歩せざる者なし實に震天動地の勢を以て東洋の新天地を開きたり其れ斯くの如く文化隆盛發展の大勢中に在て茶道獨り舊習を墨守し因循姑息時勢に背馳すべき者に非ず

珠光今を距る四百年紹鷗、利休、凡そ二百年遠州、石州、宗且、は凡そ二百五十年を經過す其れ此年代に於て創造編設したる所の茶道の法式は今日已に陳腐に屬する者尠からず今や我國の文化は皆舊套を脱し新衣を着くべき時なり茶道も亦時勢に順應して革新改善せざるべからず今夫れ利休、遠州、等を喚起して我が文化旺盛の現状を目撃せしめたらば必ず茶道の革新改善を大聲疾呼すること疑なし

今日の茶家宗匠は我が流儀に屬する茶道の定義目的を闡明せず啻に點茶手前法式を一の藝術として其規矩準繩を教授するのみにして茶道の本旨たる道德禮

儀は常に之を閑却す且茶家宗匠は總て舊式古格を株守して只古人の糟粕を嘗め模倣追隨する外更に獨立の氣概を發揮し今日の時勢に順應して茶道を革新し茶道經國の精神を以て國家に貢獻する者なきは遺憾なり

目下流行する所の茶道の教授を觀るに薄茶、炭、濃茶、を平手前と云ふ之を卒業すると其次は小習と稱し其次は大習と稱し次第に上級科目を進めて之を教授す其科目は頗る細密繁多に涉れり殊に臺子式を十二段に分ち又其上に奥十段を設けて之を教授す然れば現在の手前全科は終身之を學ぶも到底之を修了することを得ざるなり

現在斯くの如き繁多なる手前科目は悉皆實際に必要缺くべからざる者なるか否然らず其手前科目中實際に必要な者尠からず故に此等の科目は能く之を整理して其必要な者は之を省略し且其教授方法を簡捷し茶道の本旨に基き第一禮義實行を目的として且時勢に適應すべく手前法式及教授方法を改善すべし殊

に今日の茶道教授は卒業期限なきは實に不合理なり又素人茶人と宗匠と爲るべき茶人とを同一の方法を以て教授するは其當を得ず故に今後は之を區別し共に適當なる卒業期限を定めて教授すべく改善せざるべからず

今日の教授法は専ら手前法式を教ふるのみにして禮義を教ふることを閑却し殊に茶事準則を教えざるは大なる缺點なり抑も茶事準則とは茶會を開催するに付ての尤も必要なる設計準備に關する節目を謂ふ譬ば客組、按内、設計、掛物道具の配合、花と花瓶の調和選擇、露地の掃除及規程、主人の迎付、客の着座法、賓主の應答、料理獻立、茶菓用意、懷石配膳順序、茶菓酒飯飲食の法式、前禮後禮、等を謂ふ茶人は皆能く此準則を訓練せざる時は主人と爲りて茶會を開くことを得ず又客と爲りて茶會に臨むことを得ず余は往々茶席に同坐したる連客中手前は皆傳免許を受けたる者が茶席の菓子を食べる法則を知らざるを見る是れ皆茶事準則を知らざるが爲めなり故に茶道教授には茶事準則を教授し且充分に之を訓

練せしめざるべからず

今日の茶家宗匠は茶席の花を教授せざるは亦缺點なり夫れ茶と花とは實に唇齒輔車の關係あり共に之を教授せざるべからず蓋茶席用の花瓶は茶道具の中に包含す然らば茶花も亦點茶手前法式の中に加えて之を教授すべし或茶家宗匠曰草庵茶花は野生其儘を切て瓶に挿入し少しも人工を加へざるを可と爲すと此論理に基く時は草庵の點茶も亦少しも人工手前を加へず只濃茶を點して其儘出せば可なりとせざるべからず然るに點茶手前法式は草庵に於ても前述の如く頗る繁多なる科目にして且鄭重なる規矩準繩を以て之を行ひ決して野生手前に非らず而して草庵花のみ野生の必要を主張するは甚だ其當を得ず且夫れ今日の茶家宗匠は大抵皆書院式插花術を知らざる者多し蓋書院式の花は莊嚴にして草庵式の花は幽清なり幽清とは野生の謂に非ず故に此區別に従ひ茶花は點茶手前中に包含して同時に教授すべき者なり

今日の茶家宗匠は草庵式を知つて書院式を知らず或は茶道は只草庵式のみあつて書院式なる者なしと誤解せる茶人なしとせず試みに看よ今日各流家元に於て皆傳免許の爲め傳授する所の點茶手前は眞の臺子式なり抑も此臺子式は茶道の根本にして而して専ら書院式に屬す決して草庵式に用ふることを得ず然らば今日の茶家宗匠が眞の臺子式を學びながら書院式を知らずと云ふは實に矛盾の言と謂ふべし若し眞の臺子は何れの處に於て之を實行するやと問ふ者あらば答辯の辭なかるべし我文化旺盛の今日に於ては速に書院式を復活して時勢に順應し草庵書院並ひ行ひ茶道を完全に發展せしむるは茶家宗匠の天職なりとす

關東富豪茶人は常に書院式に反對し専ら草庵に名物珍器を陳列して茶事に遊ひ戯るゝ者多く未だ茶道經國の精神に依り之を研究する人を見ず蓋之れあらん余未だ之を見ざるを遺憾とす然るに近來關東茶人は一旦草庵茶會を終了したる後將に退出せんとする賓客を誘ひ更に他の廣間に按内して番茶菓物を供す而し

其床の間には立派なる掛物花瓶等名物珍器を陳列しあり蓋草庵陳列のみにては満足出來ず故に兼て此廣間に陳列し置き此に按内して之を展示する者なり余按ずるに草庵茶會終了後に於て此等の事を爲すより寧ろ初より其陳列の道具を以てと堂々書院式莊嚴の茶會を開き以て賓客を優待満足せしむるの勝れるに如かざるなり畢竟關東茶人が書院式に反對しながら茶後更に廣間に於て番茶を以て書院式同様の接待を爲すは其理由を解することを得ず

目下茶道の革新改善すべき科目中に於て最急務とする所の科目を左に列擧す

一書院式を復興改善して草庵式と並び行ふ事

今日草庵式侘茶のみを行ふて書院式を行はざる者は時代錯誤なり速に之を復興し時勢適當に改善して草庵式と並び行ふべし

二夫婦共同接待の法式を實行する事

夫婦共同接待は世界萬國共通の原則なり速に之を實行して茶道を世界的

に宣傳すべし

三眞の臺子式を改善して之を公開實行する事

臺子式は點茶の根本なり之を秘傳として實行を禁ずるは茶人の恥辱なり速に之を時勢適當に改善して公開實行すべし

四點茶手前と插花とを同時に教授する事

今日茶家宗匠が茶席の花を教へざるは缺點なり故に點茶手前と茶花の挿法即ち書院花と草庵花とを同時に教授すべし

五茶道普通科は三年卒業の事

但教授科目は薄茶、炭、濃茶、茶花、茶事準則、

通常人の稽古は平手前を本として茶花及茶事準則を教授し三年に卒業せしめ直ちに茶會を開き實生活に向て禮義を實行せしむべし

六茶道高等科は四年卒業の事

但教授科目は盆點、天目、袋茶盃、臺子眞行草、茶花、鑑識、茶會實習、茶道文學、庭園、茶室

高等科は宗匠養成の目的にして即ち師範科なり故に普通科修業の後更に四年にして卒業せしめ通じて七年修業せしむるなり

道德禮義の衰頹

輓近我國の道德禮義は次第に衰頹し國民の精神思想は益危殆に陥る殊に學生が團結して校長及教員に反抗し紛擾を醸す其騒動四方に蜂起す恰も勞働爭議に類似す或は當局の處置を非難すれ共蓋其原因は學生の傲慢不遜に職由して輕擧に出る者多し尙此外危險思想を懷抱し遂に罪科に觸れ投獄せられたる學生も尠なからず實に國家の不祥是より大なるはなし其他の民衆も其思想次第に澆淳に傾くに到る誠に憂慮に堪へざるなり

當局に於ても既に頻りに學校に向つて德育を獎勵し又一般に向て思想を善導し大に力を社會教育に盡すと雖其頹勢を救濟し其効果を奏する事は實に容易の業に非ず何となれば衆議院議員選舉ある毎に國民道德を破壊し國民の思想を墮落せしむる事實に多大なるを以て此狂瀾怒濤を防禦鎮靜し其惡弊を廓清し其民心を醇化するは頗る困難の事なり且夫れ社會教育の方法を視るに専ら中産階級以下の婦女子に向て演説を開き或は活動寫眞を示す位の教育方法に止まり恰も二階から目藥的の感あり決して應急徹底の策に非ず

官吏議員及學校教員等は皆道德を尊び禮義を行ひ國民の儀表と爲りて其威嚴を保ち其尊敬を受くべき者なり然るに此等の人にして或は人格を傷け或は禮義を破る者あり中には我醇風美俗に因て慣用し來る所の冠婚葬祭の禮儀をも之を知らず我國の舊式古格は總て之を虚禮と稱し一括して之を排斥する者あり思わざるの甚だしき者なり

天下の政治を掌る所の官吏及禮義道德を教る所の教員等にして往々我國の飲食禮を知らず又我住居の家室を裝飾使用する道を知らざる者あり而して此等の人は大抵皆西洋の飲食禮は勤めて之を研究す其れ我國の飲食禮は本なり西洋の飲食禮は末なり然れば其本を治めずして其末を學ぶ者は本末を誤る者にして且目下流行の國産品愛用の主義に矛盾する者と謂ふべし

現今當局が學生に向て德育を獎勵し又民衆に向て思想醇化を勸誘するは大に善なり而して官吏教員に向て何等の教化を施す所あるを聞かず當局に於ては此等の人は皆完全無缺の成徳達才と信ずるか否官吏教員中常識を缺乏し禮義を破る者あり殊に我飲食の禮すら之を知らざるは殆んど今日の時弊なり然れば先づ此等の官吏教員を教化して常識を涵養せしめ禮義を行はしめ以て官僚傲慢の弊を矯め國民道德擁護の根本を培養して其範を天下に示すべし然り而して初めて一般民衆に向て教化を施し其効果を奏すべき者なり

余は常に論ず仁義道德、禮に非らざれば成らず、教訓、俗を正ふする、禮に非らざれば備はらず、この格言は大に之を守らざるべからず今日の當局が禮義を行ふ事を教へずして單に德育をのみ奨励するは百年河清を待つに同じ決して其目的を達することを得ざるべし蓋謙遜辭讓は禮の實なり今日の政治家は果して禮の實たる謙遜辭讓の徳を脩めたる者ありや政權争奪は決して謙讓の美德に非らざるなり

今日の政黨は常に口を極めて官紀肅正を論ず而して其我黨紀の紊亂を顧みざるは如何ん衆議院議員の議場に於ける紛擾暴行は國民舉つて憤慨排斥する所なり然るに政黨首領が其亂暴黨員を戒飭したる事を聞かず又之を膺懲したる事を聞かず蓋政黨家は何故我黨紀肅正を行はさるか

今や我善良なる國民は泰然として此國歩艱難を傍觀坐視すべき秋に非ず是に於て余は謏劣を顧みず茶道經國の目的を以て官吏議員教員其他上流紳士等に向

て茶道の禮義に依つて常識を涵養し國民道德を保持し第一智識階級の廓清を勸誘し先づ水源を清澄し而して下流の淨化を誘導し以て大に國家に貢獻せんと欲す

東遊雜詩

四〇

昭和五年六月一日。余發木幡遊于東京。二日朝携荊妻。往于田中仙樵邸。觀眞臺子式點茶。是爲對兩貴人獻茶之法式。其儀禮頗嚴正。蓋茶道之奧義。而茶家之秘法也。此日爲見學來。侍坐于次室。門人十三名。皆新爲松殿山莊正會員。余乃爲一場之訓誨。其翌三日至二重橋下。謹拜皇居。去觀市街。震災後復興工事大進。爲倍舊之美觀矣。四日於司法大臣官舍。講茶道。聽衆滿堂。實爲茶道之光榮。其夜往于八百善樓。臨越澤宗見之茶筵。五日朝訪于石黑況翁。雅談移時。其日午時。去東京。遊湯本。宿于井上某之別業。灌花草堂。浴溫泉。喫芳茶。庭園幽邃可愛也。從庭上望見

函嶺。想起距今六十年前。余弱冠初爲東遊之時。獨徒步踰此山。往事實不堪今昔之感也。六日朝發湯本。至國府津。乘汽車。歸木幡之山莊。集其往來所得之拙詩。以紀其行。

八十翁桂堂高谷恒誌

望富士山

車走濱湖函嶺間。推牕仰見好孱顏。夕陽雲外逗殘照。絕頂三分雪虎斑。

觀田中仙樵之眞臺子式點茶

四一

茶道開端四百年。威儀三百禮三千。仙樵居士眞宗匠。臺子
典型冠世賢。

四二

三德庵懇親會

壁懸宸翰炷名香。肅々容儀茶道光。師弟團欒春似海。喜觀
猿樂起高堂。

似松殿山莊新會員

一入法門而出門。應忘規矩準繩存。請看茶道經綸事。總據
人倫窮本原。

破除陋習典型新。且戒豪奢競寶珍。茶道元來君子道。宜爲
治國濟民人。

東洋天地屬維新。斯道由來誤奉遵。閑却人間交際禮。漫尊
臺子做茶神。

司法大臣官舍講茶道

開筵司法大臣廳。說盡人倫道德經。遷化輕佻浮薄俗。欲依
禮義護朝廷。

萬古輝來孝與忠。惟神美德玉玲瓏。隆々世界無双國。渾是
天皇化育功。

四三

朝有誠忠社稷臣。國無頑兇野蠻民。帝將無缺金甌德。遍照
周天率土濱。

茶道由來贊化元。醇風美俗禮儀存。請看萬世無窮國。誘掖
良民奉至尊。

議員官吏亦臣民。上下和衷秉國鈞。欲進東洋文化勢。應依
茶道養精神。

偶感

昔作秋官登法廳。今爲宗匠講茶經。遐齡八十未知老。獨喜
顏紅髮也青。

望千代田城

砦門城壁已無痕。仰見皇居宸殿尊。堪喜老翁真健在。來頌
帝德亦天恩。

電車如織萬雷號。來過都門意氣豪。千代田城天際聳。二重
橋外月輪高。

櫻田門懷古

往事悠悠歲月賒。維新快舉耐嘆嗟。丹心報國櫻田雪。一片
流星斬大蛇。

東京市復興工事竣成

四六

災後復興工漸成。肩摩轂擊道縱橫。昭和皇帝明天子。聖德
熙々照八紘。

龍動會議

休戰戢兵世所尊。黨人底事猥喧々。漫評國是破天戒。珍重
全權星使論。

政黨弊

爲雨爲雲豹變繁。英雄心事一翻々。朝三暮四皆權略。畢竟

黨論非國論。

選舉弊

投黃贈白扣門求。爭鹿中原四百頭。洪歎奈何斯惡醜。一回
選舉萬人囚。

失題

劍佩動章登議堂。威風拂地正揚々。休言君國功勞事。驚見
野人金爵光。

遊湯本題灌花草堂

四七

滿山綠樹晚晴清。怪見溪雲脚下生。水遶灌花草堂外。青苔翠竹白砂明。

美人煎茗禮儀崇。插壁山花一點紅。窗外疎簾隔風冷。喫茶室在翠烟中。

草堂食後步閑庭。新樹雲晴山色青。禪榻啜茶美人侍。林間燈火小於星。

窗外泉聲似雨聲。溪深嵐氣有餘清。三更夢覺乾坤靜。缺月啣山杜宇鳴。

望函嶺

六十年前越此山。腰間橫劍獨躋攀。肩輿驛馬今何處。八里雲烟鎖古關。

過吉原不見富士山

雨晴天氣正濛々。滿地插秧西又東。八朶屏顏看不見。玲瓏雪在白雲中。

渡濱名湖

外洋湖注內湖灣。沿岸松林青一彎。遙望天邊富峰雪。影沈水底復成山。

紺碧瑠璃渡鏡湖。鉄車輾轉繞山岨。白帆數點待風坐。一幅
橫披入畫圖。

望琵琶湖

行過關原向北還。車奔雲水渺茫間。比良一角初三月。影落
琵琶灣又灣。

京都驛

玻璃電燭驛頭明。絡繹商茶販酒行。窗外吹烟姑試步。驚聞
瀛笛發車聲。

昭和五年八月貳拾日印刷
昭和五年八月廿五日發行

(非賣品)

編輯兼發行

財團法人 松殿山莊茶道會

京都府宇治郡宇治村木幡南山

印刷人

谷口默次

大阪市北區堂島上三丁目十六番地

印刷所

谷口印刷所

大阪市北區堂島上三丁目十六番地

終

7
6